

2-4 看護学部の教育課程 (2023年度以降入学生)

(1)基本的考え方 (2)教育課程の編成 (3)卒業要件・進級要件・資格

(1)基本的考え方

a. 学部の特徴

看護学部では、幅広い職業人の育成を行うことを基盤とし、看護学という特定の専門分野の教育研究を通じて、社会に貢献することを特色としています。

具体的には、確実な看護実践力を持ち、高い資質を有する看護職を輩出するとともに、保健・医療・福祉行政や関係機関と連携し、地域看護の充実や市民の健康の保持増進につながる研究を通して社会に貢献することとなります。

b. 教育目的

次のような人材を育成することを目的とします。

- 的確な実践力を有する人材の育成
- 人間性を尊重した対人関係形成能力を備えた人材の育成
- 地域社会に貢献できる人材の育成

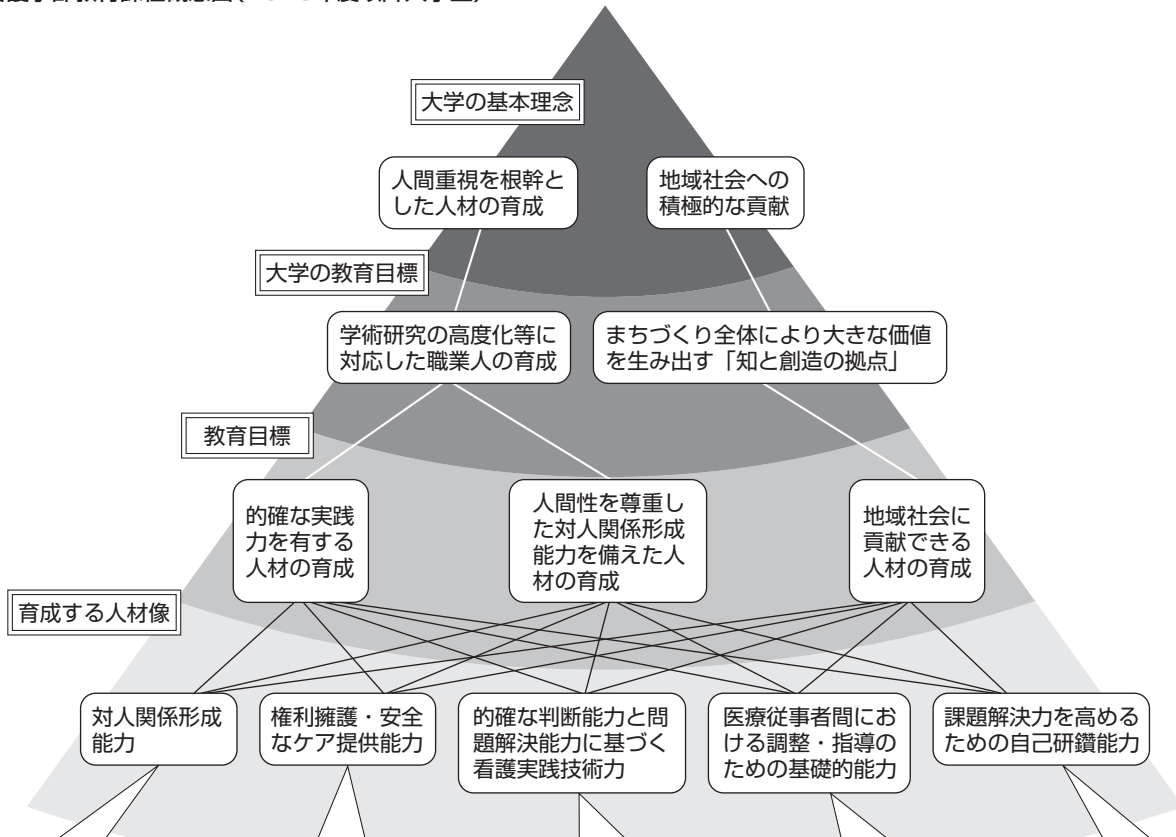
c. 育成する人材像

教育目的を達成するために、次の能力を備えた人材を育成します。

- 対人関係形成能力
- 権利擁護・安全なケア提供能力
- 的確な判断能力と問題解決能力に基づく看護実践技術力
- 医療従事者間における調整・指導のための基礎的能力
- 課題解決力を高めるための自己研鑽能力

この教育目的を達成するために、看護学部では、教育課程を「学際教育科目」と「専門教育科目」に区分し、それぞれの教育が有機的に連携し、体系的に学修できるように編成しています。

●看護学部教育課程概念図(2023年度以降入学生)



《学際教育科目》
科学系科目
 文化に対する理解
 哲学と倫理
 宗教と思想
 ジェンダー論
 文学の世界
 人間と自然に対する理解
 心のしくみ
 健康とスポーツ
 社会に対する理解
 現代社会論A(人口・家族)
 現代社会論B(国際関係)
 現代社会論D(社会言語学)
 現代社会論E(情報科学)
技術・スキル系科目
言語
 英語IA・英語IB・英語IC
 英語IIA・英語IIB・英語IIC
 実践英語A・実践英語B・韓国語・中国語・ロシア語・その他言語I・その他言語II
コミュニケーション
 日本語表現法、プレゼンテーション・基礎カウンセリング・グループ・ダイナミックス・手話・ボランティア基礎演習
《専門教育科目》
専門基礎科目
 人間と命
 生命科学・生命倫理
 保健と医療と福祉
 社会福祉学・家族社会学・臨床心理学
専門科目
 看護の基盤となるもの
 看護学原論・看護理論・援助的人間関係論・人間発達援助論・看護初期実習・看護倫理学・看護過程論・看護観察技術論・症状マネジメント論・基礎看護技術論・基礎看護学臨床実習I・II

《学際教育科目》
科学系科目
 文化に対する理解
 哲学と倫理
 宗教と思想
 ジェンダー論
 表象文化論
 人間と自然に対する理解
 自然科学B(環境)
 社会に対する理解
 現代社会論A(人口・家族)
 日本国憲法を学ぶ
 現代社会論D(社会言語学)
 現代社会論E(情報科学)
《専門教育科目》
専門基礎科目
 人間と命
 生命科学
 生命倫理
 健康と健康障害と予防
 感染予防論
 保健と医療と福祉
 感染管理論
専門科目
 看護の基盤となるもの
 看護倫理学・看護過程論
 その他ヒューマンケアの基本・看護の基本的展開に区分された科目
 発展・統合に関するもの
 看護管理学
 医療安全管理論

《学際教育科目》
導入科目
 スタートアップ演習
科学系科目
 人間と自然に対する理解
 体のしくみ
 社会に対する理解
 現代社会論B(国際関係)
技術・スキル系科目
 コミュニケーション
 日本語表現法
 基礎力カウンセリング
《専門教育科目》
専門基礎科目
 人間と命
 形態機能学I・II
 人間工学
 健康と健康障害と予防
 薬理学・臨床薬理学・臨床栄養学・病理病態学・疾病治療学概論・A・B・C
 保健と医療と福祉
 社会福祉学
 家族社会学
 臨床心理学
専門科目
 健康レベルに応じて生活を援助するもの
 各領域看護学概論・援助論・技術論・臨床実習・リハビリテーション看護学・がん看護学・認知症ケア・透析ケア・重症集中ケア・救急看護学・放射線医療管理論・ペリネイタルケア・エンドオブライフケア・寒冷地医療
 発展・統合に関するもの
 地域プロジェクトI(基礎編)
 地域プロジェクトII(応用編)
 地域プロジェクトIII(発展編)
 学部連携
 学部連携基礎論
 学部連携演習

《学際教育科目》
科学系科目
 文化に対する理解
 生活と文化
 社会に対する理解
 礼儀を学ぶ
 統計の世界
 現代社会論D(社会言語学)
技術・スキル系科目
 コミュニケーション
 プレゼンテーション
 グループ・ダイナミックス
 情報技術
 情報リテラシーI・II
《専門教育科目》
専門基礎科目
 人間と命
 環境保健
 健康と健康障害と予防
 感染予防論
 保健と医療と福祉
 公衆衛生学
 チーム医療論
 保健医療福祉行政論
 保健統計
 疫学
 医療情報
専門科目
 コミュニティケアに関するもの
 地域看護学概論・援助論・技術論
 地域看護学臨床実習
 発展・統合に関するもの
 看護情報学

《学際教育科目》
導入科目
 スタートアップ演習
科学系科目
 文化に対する理解
 芸術文化論
 表象文化論
 文学の世界
 人間と自然に対する理解
 自然科学A(科学史)
 自然科学C(動物の生態)
 社会に対する理解
 現代社会論B(国際関係)
 現代社会論C(経済)
 現代社会論E(情報科学)
技術・スキル系科目
言語
 英語IA・英語IB・英語IC
 英語IIA・英語IIB・英語IIC
 実践英語A・実践英語B・韓国語・中国語・ロシア語
情報技術
 情報リテラシーI・II
《専門教育科目》
専門基礎科目
 保健と医療と福祉
 チーム医療論
 感染管理論
専門科目
 看護の基盤となるもの
 研究方法論
 発展・統合に関するもの
 看護管理学
 看護教育学
 卒業研究
 ヘルスクエアマネジメント実習
 インターンシップ
 災害看護学
 国際看護学
 国際保健学
 医療経営学
 現代専門職論
 地域プロジェクトI(基礎編)
 地域プロジェクトII(応用編)
 地域プロジェクトIII(発展編)
 学部連携
 学部連携基礎論
 学部連携演習

2-4 看護学部の教育課程 (2023年度以降入学生)

(1)基本的考え方 (2)教育課程の編成 (3)卒業要件・進級要件・資格

(2)教育課程の編成

a. 教育課程の内容

看護学部の教育課程の内容は、「学際教育科目」、「専門教育科目」からなり、学年進行に応じたそれらの標準的な履修は、次のように構成されています。

	1年	2年	3年	4年
学際教育科目				
導入科目・科学系科目				
技術・スキル系科目				
専門教育科目				
専門基礎科目				
専門科目				

b. 各科目の内容

「学際教育科目」は、デザイン学部の学生と一緒にすることとしています。このため、1年次においては週3日、2年次においては週1日、芸術の森キャンパスに通うこととなります。「学際教育科目」においては、大学における心構えや履修方法、主体的な問題解決能力を養う「導入科目」、文化や人間、社会に対する理解を目的とする「科学系科目」、語学などのコミュニケーションツールの習得を目的とする「技術・スキル系科目」に区分しています。

「専門教育科目」は、専門科目を学ぶ前提や基礎となる「専門基礎科目」と看護の専門的知識・技術を学ぶ「専門科目」で構成しています。専門知識と高度な技術を系統的に学習できるように体系づけ、演習・実習を多く取り入れた編成とし、効果的に学習できるようにしています。

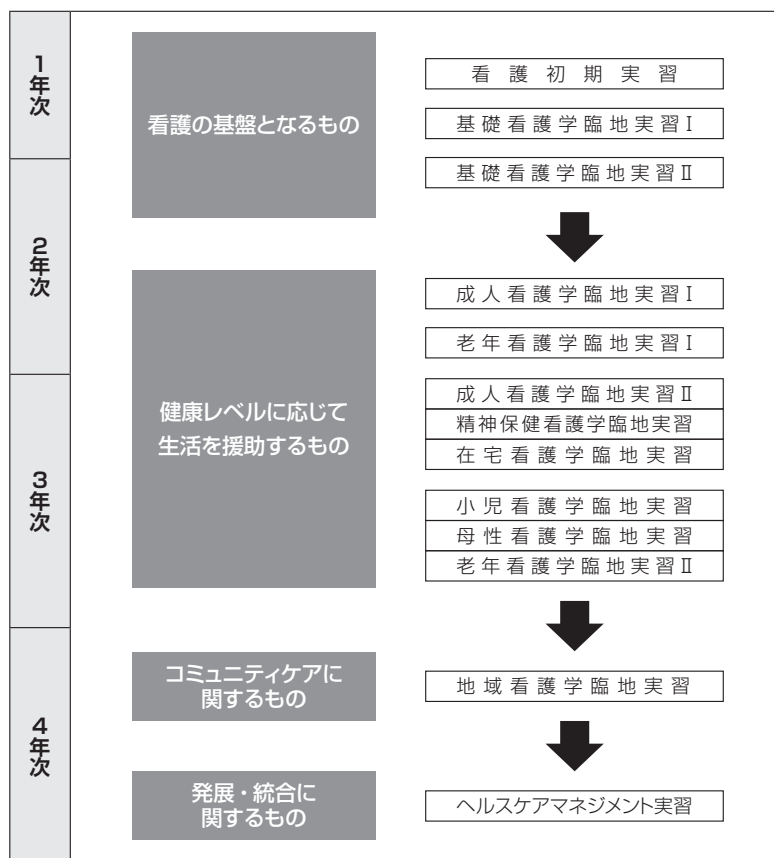
特に、「専門科目」の各看護領域の授業展開は、最初に「概論」を学んだ後、各領域の「援助論」では医師などによる健康障害時の病態及び治療等に関する授業を踏まえて、看護援助の方法を学びます。さらに、その後、皆さんが主体的、実践的に学習する「技術論」を学び、「実習」を行う構成となっています。

c. 実習

看護学実習では、さまざまな場で生活する人の健康レベル、あらゆる発達段階における人々に対して、それまでに学んだ理論や知識、技術を実践し、実際のかかわりを通して、総合的な看護実践能力を養うことを目的としています。

1年次から4年次までに行う実習スケジュール・実習内容は次のとおりで、講義・演習の進捗状況に応じて段階的に積み上げていくように構成しています。

看護学実習展開図



(3)卒業要件・進級要件・資格

a. 卒業要件

卒業に必要な単位数は126単位以上で、その内容は次のとおりです。

区 分	必 修	選 択	合 計
学際教育科目	10	16	26
専門教育科目	92	8	100
(専門基礎科目)	(23)	(3)	(26)
(専門科目)	(69)	(5)	(74)
合 計	102	24	126

b. 進級要件

進級の要件は次のとおりです。

- 各学年末において、各学年に1年以上在学(休学期間を除く)すること。
- 3年次に進級するにあたっては、原則として2年次までの必修科目の単位をすべて修得すること。

c. 資 格

卒業要件の単位を取得すると、卒業と同時に看護師国家試験受験資格を取得することができます。

※a・b・cの要件に自由科目の「地域プロジェクトⅠ～Ⅲ」は含めません。